

平成24年度 在宅医療連携拠点事業 成果報告

在宅医療連携拠点事業Cosmic Linkは、
『医療』と『介護』の連携強化を目指す

在宅医療連携拠点事業Cosmic Linkの基盤 真誠会モデル チームしんせい

地域包括ケアチームでの活動、施設からの地域展開、定期巡回随時対応型訪問介護看護事業の展開、訪問介護と訪問看護とのコラボレーションなどの活動を行うことで、地域包括ケアシステムの真誠会モデルを構築している。

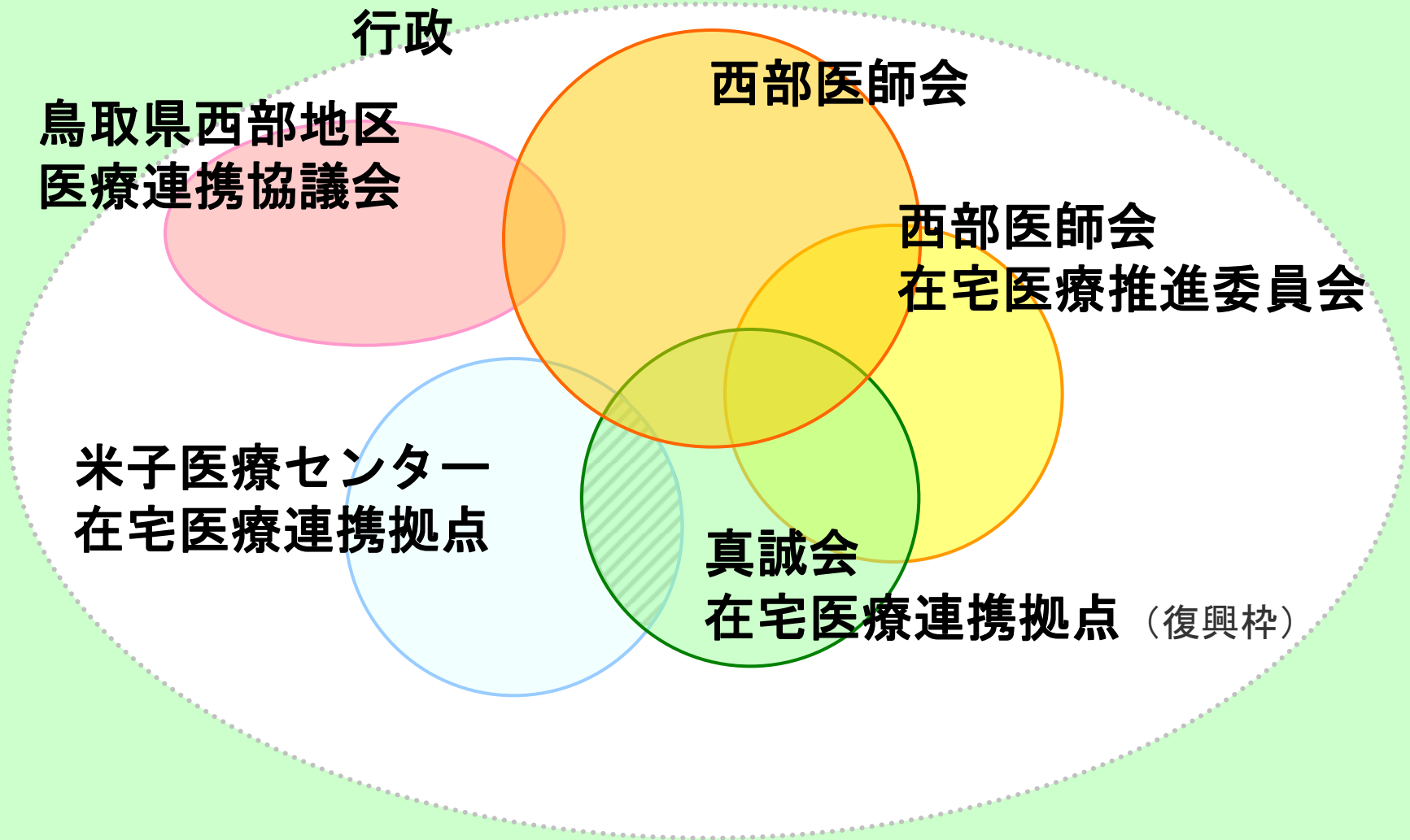


包括ケアチームカンファレンス

在宅医療連携拠点事業 活動計画

項目	事業内容	課題	目的	具体内容
①多職種連携の課題に対する解決策の抽出	・在宅医療福祉関係者における合同会議 ・地域における連携を可能とするための顔の見える関係づくり	・関係機関の連携不足 ・地域における課題が見えてこない	・職種、機関を超えた情報共有を行うことができる。 ・関係機関によるシステム作りを行うための協議をすることができる。 ・地域の医療福祉関係者から課題を抽出してもらうことができる。 ・課題から解決策を抽出することができる。	・年4回の関係機関による推進会議の開催。 ・推進会議メンバーより課題抽出をしてもらい。今年度検討課題の優先順位をつけて解決策の検討を行う。 ・西部在宅ケア研究会世話人会、例会への参加 ・西部医師会 在宅医療推進委員会への参 ・連携上の課題集出、解決策の検討
	・症例検討会の開催	・地域における課題を検討する場が少ない		多職種合同会議の開催
②在宅医療従事者の負担軽減の支援	・地域の在宅医療をより効率的に提供するための方策を実施	・介護保険新規事業を展開していくと地域のかかりつけ医や専門職の負担が軽減されるのではないかと。	・介護保険新規事業5事業所の連携をはかることで、かかりつけ医や専門職の負担軽減をはかることができる。	・連絡会を開催する。 ・現状や連携方法などを検討する。
		・外来看護師等のスキルアップをはかるとかかりつけ医や連携する専門職の負担軽減ははかれるのではないかと。	・外来看護師等のスキルアップをはかることで、かかりつけ医や連携する専門職の負担軽減をはかることができる。	・スキルアップ研修を立案し開催する。
		・各機関に情報はあがるが、活用されていないものもある。	・情報共有の一元化をはかることで、専門職の負担軽減をはかることができる。	・ホームページを立ち上げる。
③効率的な医療提供のための多職種連携	・地域資源の情報共有、効率的な活用の仕組みづくり	・関係者の情報共有のためのツールが必要である。 ・各機関に情報があるが、せつかくの情報が活用されていないものもある。	・情報共有のための在宅医療連携ガイドの作成することができる。	・医療、介護の関係機関による在宅医療連携ガイドを作成する。 ・ホームページにて一元的に情報提供を行う。
	・情報共有ツールの作成	・各機関に情報はあがるが、活用されていないものもある。	・情報共有の推進をはかることができる。	・おしどりネット加入
		・平成23年10月より使用している掲示板も10ヶ月経過したため、見直しを行う必要がある。		・平成23年度チームもりおか実践の「ゆい」システムの導入を検討する。
		・それぞれの職域や専門性で連携をはかるため、連携にスレが生じたり、不足することがある。	・包括的、継続的な支援提供のための関係機関への働きかけを行うことができる。	・アウトリーチ(訪問支援) ①地域包括支援センターに対して、医療的な助言や支援を行う。 ②地域包括支援センターと連携して居宅介護支援事業所等に医療的な助言や支援を行う。 ・広報活動を中心に支援ができる体制 ・各機関へ事業内容説明 ・勉強会、研修会、症例検討会を行う。
④在宅医療に関する地域住民への普及啓発	・在宅医療の啓発のための講演会、勉強会の開催	・地域住民の在宅医療に関する理解が不足している。	・在宅療養について、また支援機関、機器による治療への理解を深める	・在宅医療やそれに従事する職種の機能や役割の地域住民への紹介 ・地域に浸透させるためのフォーラムや講演会等の開催やパンフレットの発行を行う。
	・中海テレビ 在宅医療についての啓発番組の作成			がいなネット 中海TVにて啓発番組作成、放送
	・災害に関する勉強会の開催 ・災害時の対応についての勉強会の開催	・災害時の医療への不安	・地域住民へ災害時の対応について関心を持ってもらい、理解を深める	・防災に関する勉強会の開催 ・災害時の対応についての勉強会の開催 ・チラシ等作成
⑤在宅医療に従事する人材育成	・多職種が専門知識を生かし、積極的な意見交換や情報共有を通じて、チーム医療として患者・家族の生活を支える		・都道府県リーダーとしての役割認識	・10/13,14都道府県リーダー研修参加
			・地域リーダーの育成	・地域リーダー研修の開催
⑥災害発生時に備えた対応策の検討	・医薬品供給	・災害時の医薬品供給に関わる事項が明確になっていない	災害時の医薬品供給に関わる事項に関するマニュアルを作成する	①災害時の医薬品の供給ルートの確保 ②医薬品集積所から医療救護所等への配送方法などを明確にし、マニュアル化する
	・備品、備蓄整備	・備品、備蓄の整備	・災害時の在宅医療に必要な備品整備を行う。	薬剤のほかに、ストーマ製品、栄養剤、衛生材料
	・災害時の協力体制・対応検討、マニュアル整備	・災害時の連携対応の検討が必要 ・非難経路の整備 ・指揮ルートの整備と訓練	・地域での多職種協働による包括的かつ継続的な在宅医療の提供体制を構築をはかる。 ・連絡系統、対応のあり方について検討を行うことができる。	・地域の実状に応じた災害発生時に備えた対策を検討 ・災害時に利用可能な緊急連絡網 ・災害時の動きについて行政、各機関のマニュアル確認、連携について確認

タスク1 多職種連携の課題に対する解決策の抽出
在宅医療連携拠点事業推進会議の成り立ち



在宅医療連携拠点事業推進会議の開催と課題抽出から解決策へ

○在宅医療連携拠点事業推進会議の開催

第1回	平成24年	6月28日	28名参加
第2回	平成24年	7月18日	31名参加
第3回	平成24年	9月 4日	34名参加
第4回	平成24年	12月17日	33名参加
第5回	平成25年	3月19日	30名参加

《参加団体・職種》

行政(県、市)、医師会

薬剤師会、歯科医師会

病院地域連携室

訪問看護ステーション連絡協議会

ケアマネジャー連絡協議会

地域包括支援センター 等

○課題抽出から解決策

西部医師会	①サポート医体制の構築 ②在宅医療のスキルアップ ③住民啓発
訪問看護ステーション	①小規模ステーションの24時間対応負担感の軽減 ②医療機器管理・看護の習得 ③医師、訪問看護ステーションの麻薬管理 ④在宅困難時の入院体制
薬剤師会	ケアマネジャーや訪問看護師との連携不足
西部歯科医師会	訪問歯科診療数を増やす

多職種連携研修会

「これからの在宅医療推進のための連携のあり方を考える」

研修日	平成24年12月11日
参加者	行政5名 医師2名 看護師10名 薬剤師3名 MSW8名 介護支援専門員8名 社会福祉士3名 介護福祉士12名 管理栄養士2名 地域包括支援センター2名
内容	KJ法を使用したグループワーク
課題	①地域での人材育成、地域での仕組み作り、地域への拡がり ②ITを活用した情報共有 ③地域かかりつけ医への医師会の支援 ④行政の方向性の示唆 ⑤認知症かかりつけ医、サポーター医の育成 など



タスク2 在宅医療従事者の負担軽減の支援

○有床診療所(在宅療養支援診療所)における地域からの急患の受入やターミナルケア患者の受入を真誠会セントラルクリニックが担うことによって他の開業医の負担軽減をはかることができる。



○定期巡回随時対応型訪問介護
看護事業所が連携をはかるため、説明会や
訪問看護師とのコラボレーションを行った。



○大学病院と在宅訪問看護師との交流研修を行った。

タスク3 効率的な医療提供のための多職種連携

○情報共有の推進をはかる

⇒在宅医療連携拠点事業Cosmic Link 連携ガイドの活用

在宅医療連携拠点事業 Cosmic Link

総合相談窓口 : TEL 0859-24-5557
Mail renkeicenter@hospitown.or.jp
鳥取県米子市河岡581-3 医療法人員誠会内

ご挨拶	厚労省受託事業について	事業内容	スケジュール	事業に関する活動報告	連携中に際する活動報告	ブログ	委員会	復興特	連携バカ	リンク
医療連携ガイド	地域連携マッピング	中国ブロックの仲間たち			連携ガイド印刷版 (YouTobe)					

下記メニューをクリックすると、鳥取県西部地区の各種施設等の詳細をご覧いただけます。

*地図マークをクリックすると、大きな地図を表示します。
建物写真や、スタッフの顔、コメント等も掲載していきます。

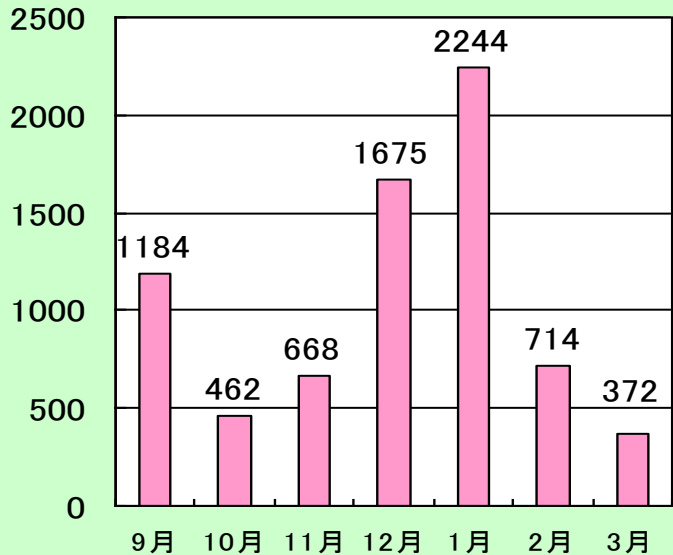
◆医療連携ガイドの印刷版は、右をクリックしてご利用ください。 → 「医療連携ガイド印刷版」(約5MB)

医療機関 鳥取県西部地区医師会 検索ページ	医療機関 登録104件 米子医療センター登録分 登録 9件	医療連携室 登録 9件	訪問診療科 掲載数10件
訪問薬局 (在宅受入可能な薬局含む) 登録 111/111件	地域包括支援センター 登録 16/16件	在宅介護支援事業所 登録 44/67件	訪問看護事業所 登録 19/27件
訪問介護事業所 登録 26/45件	通所リハビリテーション 事業所 登録 65/77件	通所介護事業所 登録 15/22件	短期入所(ショート) 登録 19/22件
介護老人福祉施設 (特養) 登録 13/16件	介護老人保健施設 (看護型) 登録 20/23件	介護療養型医療施設 (看護型) 登録 1/3件	軽費老人ホーム (ケアハウス等) 登録 7/9件
有料老人ホーム 登録 10/13件	サービス付高齢者向け住宅 登録 8件	グループホーム 登録 10/29件	小規模多機能型居宅介護 登録3件/17件
定額前払型訪問介護 登録2件/9件	認知症対応型通所介護 登録 11件/19件	訪問入浴事業所 登録2件/5件	福祉用具貸与事業所 登録 12件/19件
訪問リハビリ事業所 登録 12件/13件			

*登録情報、施設等は、随時アップデートしております。

連携ガイドの充実
 ・適宜のガイドの修正、追加
 ・1年に1度の更新
 ・ダウンロード版にて印刷

(件) 医療連携ガイドへのアクセス件数

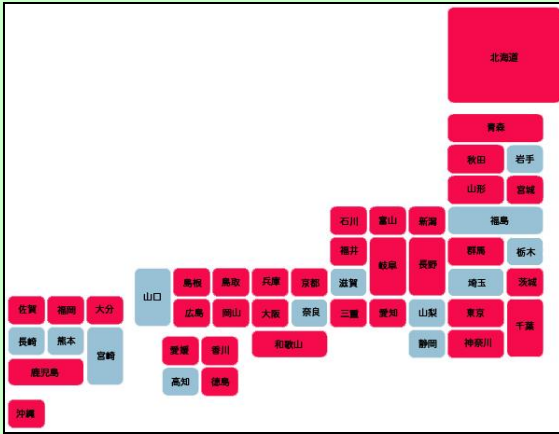


医療連携室(鳥取県西部地区)

ガイドへの登録は、下記エントリー用紙をダウンロードしていただき、電子入力後メールにて送信願います。
 ◆エントリー用紙 → [ダウンロード](#) 画像(建物、代表者、スタッフ等)は、メールに併付し送信願います。
 ◆送付先 → renkeicenter@hospitown.or.jp

検索
 すべての項目 件数: 1-9/9 [すべて表示](#)
 1/1 ページ 表示件数: 50

番号	医療機関名	MAP	建物画像	代表者スタッフ	連絡番号	住所	電話番号	ファックス番号	オプション	事業所PR
1	高齢者ケアクリニック				683-0852	米子市河岡580	0859-29-0059	0859-24-2369	高齢者医療連携センターは、医療者と福祉医療従事者による連携型訪問看護提供のための連携型、地域住民の福祉が、安心に注ぎられた地域(まち)で暮らしやすい社会を実現することを目的として、医療と福祉の両面での取り組みを持って、医療と福祉の連携を推進しております。 所帯は二人少ないですが、さまざまなサポートを受け、ご入居をお勧めし、へぐな連携先としたいたたく所望を承ります。 ご相談をお待ちしております。	
2	国立病院機構米子医療センター				683-0006	米子市東区目17番1号	0859-37-3930	0859-37-3931	連絡時間: 9:30-17:15 土日 夜間休み がん相談支援センター併設	
3	鳥取大学医学部附属病院				683-8504	米子市河岡134-1	0859-38-6561	0859-38-6560	連絡時間: 9:30-17:00 土日 夜間休み	
4	日南病院				689-5211	日野町日南町生山611-7	0859-82-1235	0859-82-1341	連絡可能な時間 平日: 9:15-17:00	



36の県から
アクセス

タスク4 在宅医療に関する地域住民への普及啓発

○地域住民の理解をはかる啓発活動

開催日、テーマ 及び 参加人数

7月28日 地域介護教室 (150名)
「目指せ100歳」「元気な百歳」

9月16日 市民フォーラム 第3回認知症サミット鳥取 (350名)
「認知症とともに地域(まち)で暮らすために」

10月21日 地域公開講座 (80名)
「終わりよければすべてよし ～最期は自宅で～」

11月3日～4日 鳥取大学保健学部錦祭 パネル展示

11月11日 介護の日 パネル展示

11月18日 第8回弓浜助け合いネットワークの会 (300名)
「こどもから大人まで みんなで見守る認知症」



弓浜助け合いネットワークの会



鳥取大学保健学部 錦祭

タスク5 在宅医療に従事する人材育成

○『医療』と『介護』の連携強化のための研修会

・米子市、鳥取県西部を対象とした地域リーダー育成

11月27日	2市8町村の行政担当者への伝達講習	13名
12月17日	専門職(行政、医師、歯科医、薬剤師等)	33名



・チームしんせいにおける研修会

9月5日	介護支援専門員と薬剤師の連携	22名
10月3日	24時間の生活を支える専門職のアセスメント	25名
10月15日	認知症ケアの実際と今後の展望	139名
11月7日	地域包括ケアシステムの構築を目指して	30名
11月29日	被災者支援活動の経験と気づきから学ぶ	97名
12月11日	多職種連携の拡大について考える	55名
1月18日	「普通に食べる」それが一番難しい栄養ケアのあり方	27名
2月19日	災害時のケアマネジメントの視点を考える	23名
3月6日	人と人をつなぐ ヒューマンリレーションシップ	33名

行政担当者への
伝達講習

タスク6 災害時に備えた対応策の検討

○自施設での避難訓練シュミレーション実施(平成24年10月17日)

訓練参加者 46名

真誠会職員(看護師5、介護職12、その他15名) 32名

拠点事業メンバー(看護師3、医師1、その他10名) 14名



被災者対応

○津波避難訓練から得た福祉施設の可能性の検討

1. 災害ボランティアの派遣

- ・法人全体で施設から25名は可能

2. 避難場所へ専門の多職種の派遣

- ・法人全体で専門職を10名程度避難所へ派遣可能

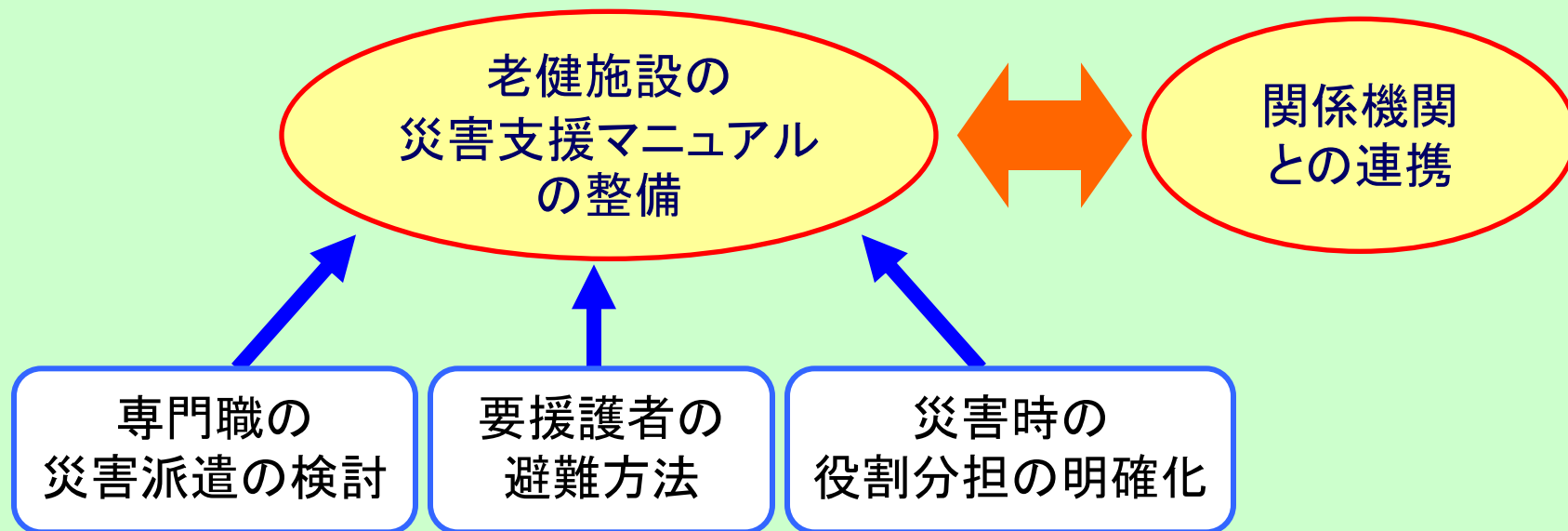
3. 老人保健施設としての災害時受け入れ

- ・要援護者を中心として150名受け入れ可能

タスク6 災害時に備えた対応策の検討

- **地域の実情に応じた**災害発生時に備えた対策をはかる
 - ⇒ 避難訓練シミュレーション実施
 - 訓練後の災害対応に関する課題抽出
- 災害時の在宅医療に必要な備品の整備
- 災害支援に関するマニュアルの作成

《避難訓練シミュレーション 課題》



平成24年度在宅医療連携拠点事業活動アンケート報告(1)

【目的】地域での在宅医療推進のための1年間の活動をまとめ、今後の在宅医療推進についてのあり方の資料とする。

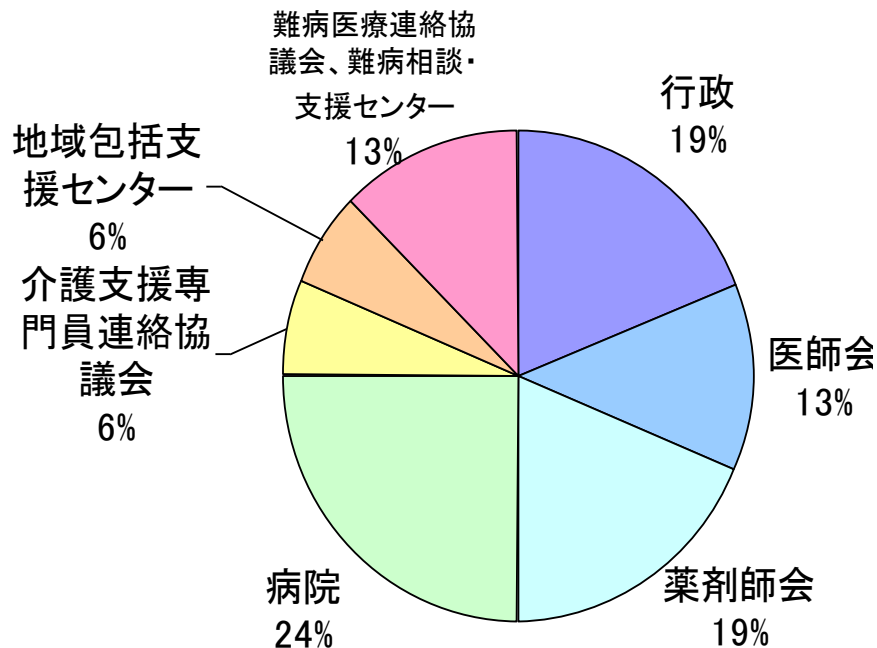
【対象者】平成24年度在宅医療推進会議委員25名

【方法】アンケートの調査票を郵送にて配布・回収 回収数16 回収率64%

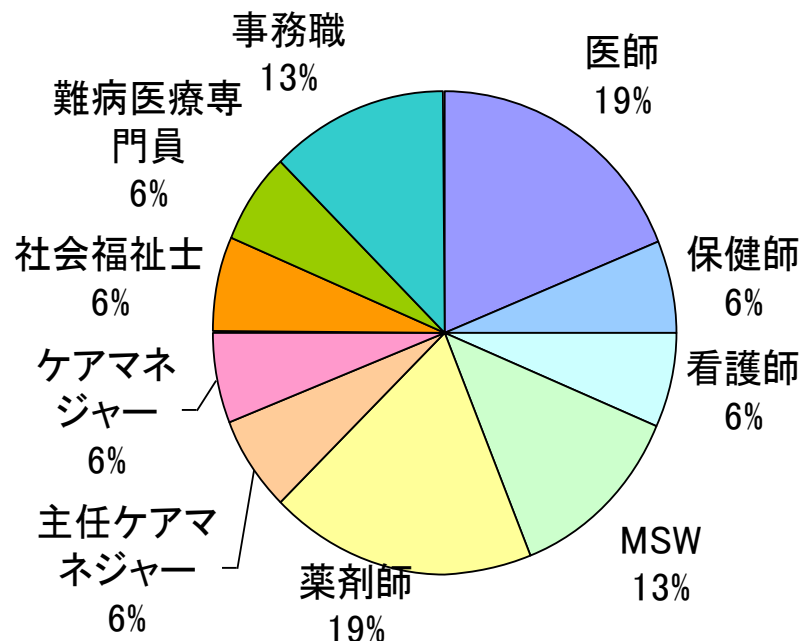
【調査内容】1)在宅医療連携拠点事業の活動に参加して感じたこと

2)今後の在宅医療を展開するための意見 (KJ法で意見抽出)

【所属】



【職種】



平成24年度在宅医療連携拠点事業活動アンケート報告(2)

アンケート結果をKJ法により分析

1) 在宅医療連携拠点事業に参加して感じたこと

- ①在宅医療連携拠点事業推進会議の効果
- ②ITを活用した医療連携ガイドの効果
- ③在宅医療における薬剤師役割の効果
- ④地域包括ケアシステムの理解と多職種連携の重要性

2) 今後の在宅医療を展開するための意見

- ①連携の強化
- ②在宅医療の充実
- ③多職種連携の研修会の開催
- ④専門職の質の向上に向けた取り組み
- ⑤在宅医療についての住民啓発
- ⑥地域、行政、福祉施設を巻き込んだ防災対策

まとめ (1)

大きな成果として、

- 多職種の専門職リーダーでの組織の編成ができた
- 多層のメーリングリストの作成ができた
 - ⇒行政、医師会、医療・福祉・保健の関係機関との随時の情報共有・情報交換が可能となった
- インターネットを活用した連携ガイドを作成
 - ⇒社会資源の有効活用、情報の共有が可能となっただけでなく、インターネット版と印刷版の両方を可能にしたモデル的な情報共有のあり方を示すことができた

